

あの日もこんな雨が降っていた。

「ユミルは雨が嫌いななの？」

「突然だな、クリスタ。好きか嫌いかで言えば……この雨は、嫌いじゃないな」

—だって、ここには屋根がある。

「そうなんだ。険しい顔をしていたから、嫌いなのかなって思った」

「…これだけ雨が続けば気も滅入るだろ」

—一人で彷徨っていたあの頃とは違う。

「それもそうだね。…ねえ、ユミル」

—此処は【外】よりアタタカイ。

「次のお休み、晴れてたら街に出ようか」

「あー、晴れていたらな」

「もうすぐ雨期も終わりだし、きつと晴れるよ。約束、ね」

お前がいたから、温かった。

Story: 結希

6

2014

29

SUN

30

MON

7/1

TUE

2

WED

3

THU

4

FRI

5

SAT

- Ymir & Krista/Historia 2014 Calender -